

麦作技術情報 No. 3

令和6年3月26日
鳥取県産米改良協会

令和6年産(令和5年11月9日農試場内播種)しゅんれいの現時点の出穂期予測日は4月5日で、前年出穂期(11月8日播種)よりやや遅い状況であり、平年(11月3日播種)と比較すると、4日遅い予測日となる。播種日が出穂の早遅に大きく影響するとともに、今後の高温で生育進展が早まる可能性があるため、病虫害防除等の適期を逃さないようには場を観察し、管理を徹底することが重要である。

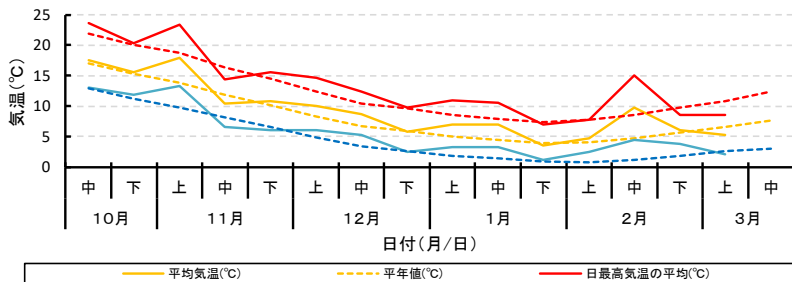
■病虫害防除

- ・ほ場ごとに出穂期に応じて適期防除を行う。
- ・赤かび病の発病によって、収量や品質が低下するばかりでなく、人や家畜に有毒なかび毒を発生するため、予防防除を徹底するよう努める。
- ・オオムギ網斑病の病勢が進展する時期であるため、発生を見たら、適期防除に努める。
- ・コムギ黄斑病は早期発見に努め、状況に応じた対応を行う。特に、前年産小麦において本病が多発生したほ場や連作ほ場では、発生状況に注意する。

■排水対策

- ・湿害は出穂後の登熟に悪影響を及ぼす。特に登熟に大きな役割を果たす麦の細根の発達を阻害し、登熟不良の原因となる。
- ・排水路の点検等を定期的に行い、明渠と排水路をつなぎ、表面水が速やかに排水されるように努め、湿害を受けない環境を作ることが重要である。

【現在までの気象経過】



11月中下旬に一時的な低温期間があったものの、期間中の平均気温は平年と比較して1℃程度高く、全般に暖冬傾向であった。

図1. 日平均気温旬別平均値の推移(2023~2024倉吉市アメダス)

11月中旬に降水量が多く、一部湿害の原因となった。
1月に若干の積雪があったが、根雪期間は短かった。
期間中の降水量の合計は700mm程度でほぼ平年並であった。

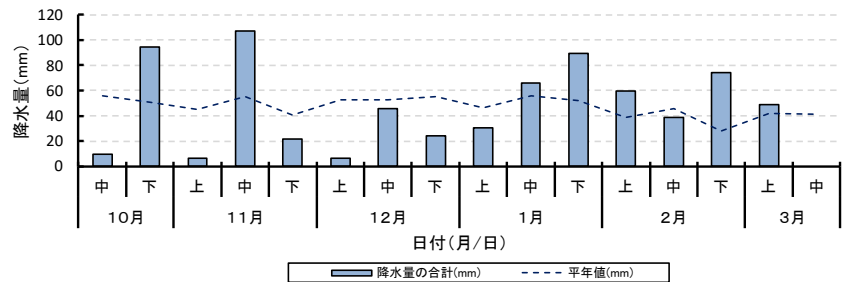
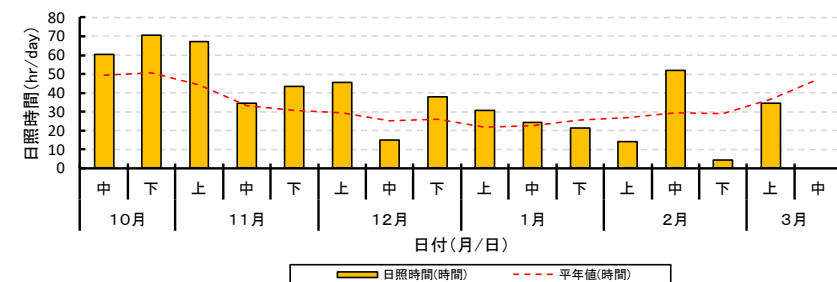


図2. 降水量旬別合計値の推移(2023~2024倉吉市アメダス)



12月中旬及び2月に日照時間が短い期間があったが、初期生育全般において日照時間は平年以上で経過した。

図3. 日照時間旬別合計値の推移(2023~2024倉吉市アメダス)

I 気象予報

中国地方 1か月予報 (3月23日から4月22日までの天候見通し)

令和6年3月21日
広島地方気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

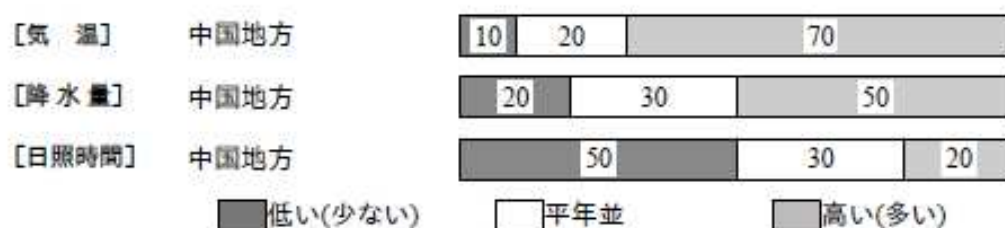
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



II 「しゅんれい」(二条大麦)の生育概況

【現地ほ場】

- ・全般的に生育は順調で、分けつが旺盛な傾向である。特記すべき病害虫の発生は見られていない。
- ・倉吉市「しゅんれい」の3月22日現在の出穂期予測結果は、11月1日播種ほ場で3月24日の予測となっており、平年と比較してやや早い状況である。

【農業試験場生育観測ほ場】

- ・農業試験場11月9日播種「しゅんれい」は、3月22日時点で止葉抽出期となっており、葉耳間長の抽出によって4月5日には出穂期を迎えると推測される。茎立期は2月中旬で、一般的な暖冬傾向により生育進展がやや早い状況であったが、間断的な低温があったことから、平年の11月3日播と比較すると、予測出穂日がやや遅い結果となった。生育量については、平年に比べて草丈がやや長く、茎数が多いが、葉色はやや淡くなっている。

表 ビール麦「しゅんれい」の生育状況(播種後約4か月:3月上旬)

項目	単位	R1年産	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産	R6年産	過去 平年比(差)
茎数	(本/m ²)	618	986	803	724	879	1144	143
草丈	(cm)	39.5	45.8	27.2	17.8	26.8	49.1	156
葉色	SPAD	41.5	45.5	46.3	49.9	44.8	40.4	89
葉齢	(葉)	9.7	10.7	9.8	8.0	10.0	9.7	0.1

表 ビール麦「しゅんれい」における過去の出穂期(農業試験場内11月上旬播種)

産年	出穂期 月日
H30年産	4月8日
R1年産	3月30日
R2年産	3月21日
R3年産	4月1日
R4年産	4月14日
R5年産	3月27日
過去5年平均	4月1日

※R4年産は11月中旬播種のため平均値より除外。

III 技術対策

1 排水対策

- ・登熟期の湿害は収量や品質に悪影響を及ぼす。
- ・大麦の等級低下理由は、充実度が悪い等の場合が多い。充実度が低下する要因の一つとして登熟期の湿害の影響が大きいことから、冬季に明渠等が埋まって排水を阻んでいないか、排水状況を点検し、手直しを行うことで、速やかに排水を促す。

2 病害虫防除

(1)オオムギ網斑病

- ・葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤 25(1,000倍、収穫21日前まで、1回)等を散布する(展着剤を加用のこと)。

(2)うどんこ病

- ・高温傾向で多発する病害で、現在のところ発生した情報は伝えられていないが、動向に注意し発生を確認した場合は防除を行う。

(3) 赤かび病

- ・赤かび粒に対する検査基準が厳しくなっており、防除を徹底する。
- ・本病は、出穂期以降の高温(20～27℃)、降雨により発生が助長され、発生すると出荷できなくなるので、すべてのムギで防除の徹底が必要である。また、発病後の防除は困難であるので、下表のとおり適期防除を徹底する。

赤かび病防除対策

	麦 種	防 除 時 期	農 薬 名
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	
	小 麦	〃	
2回目	二条大麦	1回目散布の7～10日後 (多発生が予想される場合)	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	六条大麦	1回目散布の7～10日後	
	小 麦		

(注)

- ・多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジン M 水和剤、トップジン M ゴル、ワークアップフロアブルおよびミラビスフロアブルの防除効果が高い。
- ・水和剤の散布に当たっては、展着剤を加用する。
- ・大麦ではチオファネートメチル剤(トップジンM水和剤、同ゴル、同粉剤 DL 等)の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

使用基準(赤かび病)

農 薬 名	使 用 量	使 用 時 期	本剤の使用回数
シルバキュアフロアブル	2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a		
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	大麦:収穫30日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦:収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンMゴル	大麦:1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
	小麦:1,000～1,500倍		3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	大麦:3回以内(出穂期以降は1回以内)
			小麦:3回以内(出穂期以降は2回以内)
ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	

(4)コムギ黄斑病 【参考】R5年度病害虫発生指導情報 R6年3月14日鳥取県病害虫防除所

- ・3月13日現在、県内の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。
 - ・赤かび病の1回目の防除時期(開花始～開花期)までに病斑が確認される場合は、上位進展前にアミスター20フロアブル等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ※特に令和4年播きコムギにおいて本病が多発したほ場及び連作ほ場では、発生状況に注意する。

【参考】

令和5年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：コムギ黄斑病 (No. 1)

令和6年3月14日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

3月13日現在、県内の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。ほ場の見回りなどを行って早期発見に努め、状況に応じた対応を行う必要がある。特に令和4年播きコムギにおいて本病が多発生したほ場では、発生状況に注意する。

2 防除対策

- ・赤かび病の1回目の防除時期(開花始～開花期)までに病斑が確認される場合は、上位進展前にアミスター20フロアブル等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ※特に令和4年播きコムギにおいて本病が多発したほ場では、発生状況に注意する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 本病の一次伝染源は被害残渣であり、下位葉に発生したのちに上位進展する。
- (2) 一般的に前作が畑作物のほ場やコムギ連作ほ場は、前作が水稻のほ場と比較して、発生が多い。
- (3) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。



【参考】発生初期の病斑

○農作業事故防止を徹底しましょう！

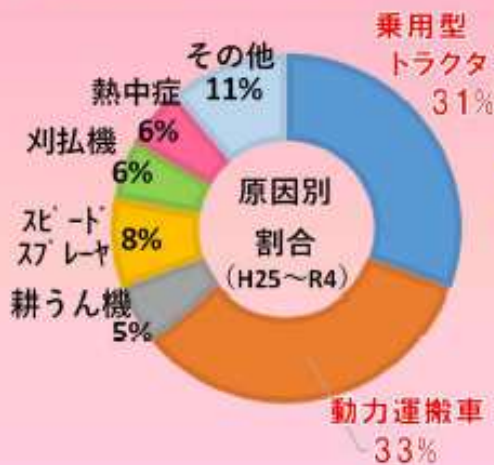
3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。



(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(№Ⅰ)より

(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(№Ⅲ)より

★ 鳥取県における農作業中の重大事故



◎ 乗用機械での横転やひかれ・挟まれ事故が多い。

◎ 死亡事故は70歳以上が大半



県内の農作業事故報告数の推移
※県に報告のあったもの。(R5年度は11月末現在)

- 大切なものを失う前に...
- ★ 安全な操作・作業方法を再確認！
 - ★ ほ場等の危険箇所を把握！
 - ★ トラブル対応時はエンジン停止！

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局

鳥取県農林水産部経営支援課
JA鳥取県中央会農業くらし対策室

電話0857-26-7327

電話0857-21-2607

令和6年1月発行

自分自身が注意するのはもちろん、**家庭や地域などでも声をかけあって、みんなで農作業安全に取り組みましょう！**

【トラクター】

安全作業のポイント！

- ① **安全キャブ・フレームとシートベルト着用の徹底**
(安全キャブ・フレームとシートベルト着用で、万が一の突発的状況でも死亡事故を回避)
- ② **危険箇所のチェック**
(移動経路やほ場の危険箇所を事前確認及び共有し、改善・補修や目印の設置など)
- ③ **ほ場進入路の幅・勾配の改善・補修**
(トラクター事故で最も多い転落転倒は、ほ場出入り時に発生)
- ④ **ほ場作業が終わったらブレーキ連結**
(ブレーキ連結は、必ずほ場を出る前に実施)
- ⑤ **低速車マークや反射板(シール)を装備**
(自動車から見にくいいため、道路上で追突される事故が発生)
- ⑥ **公道走行は、機械の大きさに応じた免許が必要**
(幅1.7m、長さ4.7m、高さ2.0m、最高速度15km/時を超える機械での公道走行には大型特殊免許が必要)



【動力運搬車・スピードスプレーヤ】

安全作業のポイント！

- ① **発進前に走行レバーの進行方向と緊急停止の方法を必ず確認**
(逆方向に動いてあわてて停止できず、ひかれ、挟まれによる事故が多い。)
- ② **前進・後退時には進行方向や足下の状況を必ず確認**
(転倒や物と機械の間に挟まれる事故を防ぐため、進行方向や足下の障害物に注意)
- ③ **エンジン始動時の操作レバーは中立**
(始動時の急発進によるひかれ、挟まれによる死亡事故が多い)
- ④ **発進時にハンドルの向きを必ず確認**
(思っている方向と逆に動くと危険なため、走行前にハンドルの位置を必ず確認)
- ⑤ **道路上の走行はなるべく避ける**
(公道を走れる機種と、走れない機種があることに注意)



★非常時は、誰しもあわてて冷静な判断が難しくなります・・・

日頃から命を守る行動を重視し、トラブルの際は無理せず、必ずエンジンを停めて対応しましょう！

農機具盗難にも注意！

農機具は目につきやすい場所に置かず、使用後は鍵のかかる小屋や倉庫に保管しましょう。

協議会からのお知らせ【農作業安全研修の希望について】

農作業事故防止のため、協議会では**農業者組織や法人等を対象にした対話型研修の実施を推進し**、生産者の安全意識向上を図っています。

研修を希望、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、仲間と話し合いながら情報共有するとともに、組織で取り組む安全行動を定めて、農作業安全に対する取組みのレベルアップを図るきっかけとしてもらうものです。